

各 位

会 社 名 株式会社小僧寿し  
 代表者名 代表取締役社長 大西 好祐  
 (JASDAQコード9973)  
 問合せ先 取締役管理本部長 三浦 広義  
 (電話番号 03-6226-4400)

## 特別損失の発生並びに業績予想の修正について

この度当社において下記の通り特別損失が発生いたしますので、その概要をお知らせするとともに、平成25年12月期（平成25年1月1日～平成25年12月31日）の業績予想について、平成25年11月8日付「連結子会社の特別損失の発生並びに業績予想の修正について」発表時の通期業績予想を下記の通りお知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別損失の発生理由

当社グループでは業績回復のために、主幹事業である持ち帰り寿し事業への経営資源の集中、「小さな本部化」による管理コスト削減等の諸政策を進めてまいりました。しかしながら現在の厳しい経営環境、今後の見通しを勘案し回収可能性を検討した結果、特別損失として店舗資産及び共有資産の減損損失5億96百万円等を新たに計上し、通期で14億56百万円を計上する予定です。

#### 2. 平成25年12月期連結業績予想の修正について

通期（累計）（平成25年1月1日～平成25年12月31日）の業績予想

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益（円銭）
前回予想（A）	15,958	21	9	△410	△27.13
今回修正（B）	15,562	△629	△646	△1,727	△111.61
増減額（B-A）	△396	△650	△655	△1,317	—
増減率	△2.5%	—	—	—	—
前期の実績 （平成24年12月期）	20,235	△644	△611	△878	△65.73

### 3. 修正理由

当社グループでは、個店単位でのマネジメントの充実化を図ったほか、既存店舗の宅配機能の付加も開始し、利用頻度の増、潜在顧客の発掘、商圈の拡大を行ってまいりました。しかしながら、売上高につきましては、直営店舗の営業権譲渡によるFC化が当初の計画を下回ったこと、直営店舗の既存店売上前年比が96.3%となったことにより、前回予想の159億58百万円から155億62百万円となりました。損益につきましては、商材価格の高騰への対応や在庫およびロス管理の徹底と人件費削減等に努めてまいりましたが、上記の営業権譲渡によるFC化の計画未達、想定以上の商材価格の値上がり等により前回予想の営業利益21百万円に対し営業損失6億29百万円（前年同期は6億44百万円の営業損失）、経常利益9百万円に対し経常損失6億46百万円（前年同期は6億11百万円の経常損失）となりました。また、特別損失として減損損失等14億56百万円の発生により当期純損失4億10百万円の予想に対して当期純損失17億27百万円（前年同期は8億78百万円の当期純損失）となりました。

（注）上記の予想は、現時点における経営環境において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。

以 上